

令和5年度第1回新居浜市総合文化施設及び美術館協議会会議録

1. 日時 令和6年2月14日（水）13:30～15:00
2. 場所 あかがねミュージアム 創作スペース
3. 出席者 出席委員（10名）
近藤 鈴代 神野 恭多 佐伯 徳哉 神野 祐一
篠原 雅士 徳田 明仁 岡野 弥生 吉田 達哉
合田 定子 尾崎 恵
欠席委員（5名）
藤原 正治 日野 右子 永井 泰子 新田 真理
坂上 公三
事務局（5名）
新居浜市美術館 館長 高橋 洋毅
学芸係長 鎌田 真実
主任 白川 亜子
学芸員 紀伊 知実
あかがねミュージアム運営グループ
施設統括責任者 井上 和志
4. 傍聴者 なし
5. 次第
 - 1 開会あいさつ
 - 2 委員紹介
 - 3 役員選出
 - 4 議事
 - (1) 令和5年度事業報告について
 - (2) 令和6年度事業計画（案）について
 - (3) その他

事務局	<p>定刻がまいりましたので、ただ今から、令和5年度第1回新居浜市総合文化施設及び美術館協議会を開催いたします。</p> <p>本日は藤原委員、日野委員、永井委員、新田委員、坂上委員さんから欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>委員定数15名のうち、10名のご出席をいただいておりますため、新居浜市総合文化施設及び美術館協議会条例第6条の規定により、協議会は成立いたしております。</p> <p>また、この会は、「新居浜市審議会等の公開に関する要綱」に基づき傍聴席を設けておりますが、本日の傍聴者はございません。それでは、お手元の会次第にそって進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>開催にあたりまして、新居浜市美術館長 高橋がごあいさつ申し上げます。</p>
-----	--

高橋館長	(開会あいさつ)
事務局	<p>今年度は、任期満了により委員の改選が行われました。新たにご就任された方もいらっしゃいますので、本日の会議にご出席いただいております委員の皆様にご自己紹介をいただき、その後、事務局の自己紹介をいたします。それでは、吉田会長から、時計回りの順にお願いいたします。</p> <p>(各委員及び事務局の自己紹介)</p> <p>それでは、次第3の役員選出でございます。</p>
高橋館長	<p>美術館長の高橋から説明いたします。 新居浜市総合文化施設及び美術館協議会条例第5条の規定に基づき会長、副会長の選出に移りたいと思います。同条例第5条第2項で委員の互選により定めとなっております。どなたか選出について、ご意見ございませんか？</p>
合田委員 高橋館長	<p>事務局一任でお願いできたらなと思います 事務局案といたしまして、昨年度に引き続き、会長を吉田委員さん、副会長を篠原委員さんをお願いしたいと考えております。皆様、いかがでしょうか？</p>
一同 高橋館長	<p>(一同、うなずいて同意を示す) 吉田委員さん、篠原委員さん、よろしいでしょうか。 ご同意いただけますでしょうか。</p>
吉田委員 篠原委員 高橋館長	<p>はい はい それでは、会長は吉田委員さんに、副会長は篠原委員さんに決定いたしました。それでは、議事に移らせていただきます。これからの進行は、吉田会長にお願いいたしますと存じます。</p>
吉田会長	<p>それでは、本協議会の設置目的について、まずご説明をさせていただきます。 新居浜市総合文化施設及び美術館協議会条例第2条に規定されておまして、新居浜市総合文化施設と新居浜市美術館の運営に関する事項について調査・審議し、それを市長に意見を述べるものでございます。 それでは、議事1、令和5年度事業報告について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
高橋館長	<p>皆様ご存じのとおり、令和元年度末からのコロナ感染症拡大防止のため、令和2年度及び令和3年度については臨時休館や事業の中止、延期、縮小などが相次いでおまして、令和4年度につきましては、ようやく通常通りの事業ができるようになってまいりましたが、事業の性質によっては入場制限を行ったものもございました。そして、昨年5月には新型コロナウイルスの位置づけが2類から5類に変更になりまして、特別な制限もなく、コロナ前と同様の条件で事業実施を行えるようになりました。</p> <p>市民の方も、ようやく気兼ねなく芸術文化を楽しもうという心の余裕が生まれてきたのでしょうか、今年度の展覧会事業では、夏休み時期に開催した「tupera tupera のかおてん。」、冬に開催しました「山下清展」の二つの展覧会で、いずれも16,000人を超える、多くの方にご入場いただきました。</p> <p>会期終盤などは展示室内も非常に混雑しており、以前なら間違いなく「密になっている」と言われるような状態でした。多くの方にご来場いただけるような美術館事業を行うことができるようになりましたことは、非常にうれしいことだと考</p>

	<p>えております。 それでは、個別の事業につきましては学芸員の鎌田より説明いたします。</p>
事務局 鎌田	<p>それでは令和5年度の事業報告をさせていただきます。 (資料に基づいて説明)</p>
事務局 井上	<p>続いて指定管理の方の事業報告をいたします。 (資料に基づいて説明)</p>
吉田会長	<p>ご説明ありがとうございました。 それでは議事1、令和5年度事業報告についてのご意見やご質問などございましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。</p>
篠原委員	<p>山下清展の反響は、どこに行っても、山下清展よかったですねという声を聞かせていただきます。 本当に素晴らしい展覧会がやってきたと思います。 そして昨年の「かおてん」ですけれども、こちらも本当に大勢の方にお越しいただいた魅力的なイベントであったと思いますけれども、両者に共通していることは、関連イベントがあるということです。ですから、お客様をお呼びするのにただご覧いただくのではなくて、その関連イベントによって、より気持ちが高揚して、お客様に大いに楽しんでいただく、また勉強されるのではないかと思います。今後もそういう展覧会をぜひ楽しみに期待を申し上げます。</p>
高橋館長	<p>山下清展については、あれは素晴らしかったという皆さんからの意見を聞いております。もちろん内容もいいし、普段、美術館でなかなか来ない人が来ているなという印象を受けました。今回も展示室を見ましたら、ご高齢の方、車椅子の方もかなり多かったという印象を受けたのですが、市内だけではなく市外、県外からもたくさん来られていたという印象を受けています。 あと、「かおてん」につきましてはこれ昨年度、令和4年度の春に高松市美術館でやった展覧会の巡回でございまして、懸念は多少あったのですが、蓋を開けてみるとやっぱりこちらの方もたくさん来ていただきました。もちろん、コロナが明けたというのも大きかったと思います。 あと春のひろしま美術館展についても正直、集客は見込みほど伸びてはไม่ใช่ですけど、見ていただいた方からはいい作品が揃っていたという感想もいただいています。開館以来取り組んできた近代洋画の流れをくむ展覧会であったということで、見ていただいた方の評価は高かったと思います。 魅力ある展覧会を我々が提供、皆さんに見ていただけるというのを来年度以降も続けていきたいです。 以上です。</p>
吉田会長	<p>ありがとうございます、徳田先生、ぜひご意見をいただきたいです。</p>
徳田委員	<p>活動が素晴らしいというふうに思います。 10年以上にわたって結果的にこのあかがねミュージアムを作る前の段階から少し関わらせていただいています。 35年、40年くらい文化芸術美術という観点のもとで、新居浜の市民の方々がとても熱い思いをずっと持ち続けた中で施設を作りたいという活動が実を結びました。 この美術館は新居浜の文化芸術活動を地域に根差していきたいというふうに地域</p>

<p>高橋館長</p>	<p>の方々がすごく思いを込めて人材育成してきたところであって、人材育成の拠点です。</p> <p>そういう意味におきましては、展示も素晴らしいですけど、何より素晴らしいことは全てがほとんど体感体験に置き換えた芸術活動を市民の方に供給しているということです。</p> <p>こちらの令和5年度の活動を全部見させていただいても、体験してもらって伝えて、その先の中に一人一人が何か心で感じていただけることを少しずつ育てていけたらなという思いを皆さんもお持ちになっていて、そして運営側はそれに対して市民の方々に返そうという活動のように見させていただきました。</p> <p>市民の方々がこの施設に年間どのくらい足を運ばれているかというアンケート調査をされていますか？</p> <p>実際にはここで来場してくださっている方々に対してアプローチをするという意味で、質問というか、コミュニケーションの延長線上でデータが取れたりすると、とてもいいと思います。</p> <p>10周年の前に早く150万人を突破しているのかもすごいんですけど、まずは市民調査をしますよ、市民調査のその先にこんなことをやろうとしていますよ、ということをついやるようなプロジェクトをフックとして引っ掛けながら来年度の流れにもっていきけるような調査というのもしやられたらいいかなと思います。</p> <p>また、もう一つはPRのチラシなんですけど、この展示が素晴らしいということがわかりますが、体験すると面白いぞ、というのもやっているといます。伝えるということに少しずつ、工夫が少しずつで構わないので、やっていただきたい。フェイスブックもいろいろ見させておりますが、AIの分析の場合は、それが自分の好き嫌いのところが、それまでのデータを自分が止めた状態をAIが記憶しているので、携帯とかスマホとかで自分たちが止まるような情報ばかり入ってくるようになっていっていると思います。</p> <p>新居浜市11万人の方々にもう1ランク素晴らしいサービスを固定でサービスをするみたいな、ある意味PR格差をしていただいて、今まで3回来ていたけど、じゃあ4回目行こうかみたいな形に、市民の方々の11万人の中の1割でも2割でも、そんな気持ちになれるような形になればいいと思います。</p> <p>アンケートの調査、市民の調査と、PRをするところにおいて、何かもっと伝わってもらえるような工夫をしていただけたら、より素晴らしい展示活動になっていくと思います。</p> <p>施設ができる中でずっと関わってきていただいている方に素晴らしいと言っていたけるのは、非常に嬉しいことです。</p> <p>この施設についてのアンケートですが、市政モニターという新居浜市全体の市政モニター制度があって、それに登録している方に対しては、ある程度コンスタントにはとっています。あかがねミュージアムに行ったことがありますか、展覧会を見に行っていましたか、使い勝手についてどう思いますか、そういう形での展覧会は市政モニターで登録している方に対する定数が決まった中でのアンケートになるのですが、そういう形は続けております。</p> <p>あとは、こちらの美術館ができるにあたって40年以上の年月をかけて作られたということで、基本的に市民の中に文化芸術を愛する方々が非常に多く、文化芸術の意識が根付いています。文化協会は市民主体で活動していただいております、県内の他の市ではない新居浜市の最大の特徴ではないかと思っております。そういう方々にあかがねミュージアムの運営をサポートしていただいております、全員で作る体制というのが築かれていることは、あかがねミュージアムがアピールできる素晴らしいところではないかと思っております。</p> <p>うちの扱いとしては、令和7年度が開館10周年になります。</p>
-------------	---

	<p>令和7年度は新しい指定管理者で活動するということになりますし、その中でいろいろと10周年に向けて魅力的な展覧会事業、その他いろいろな事業を積み重ねていきたい。</p> <p>PRについても、そんな展覧会をしているのを知らなかったと言われることが時々あります。そういうことがないようにありとあらゆる手段を使っていきたいと思えます。今年度などは非常にPRも積極的にやりました。来年度以降の関連事業も含めて、これから10周年に向けて取り組むということになります。</p> <p>以上です。</p>
佐伯委員	<p>この美術館の学芸員さんですが、どれくらいの体制、何人くらいの体制で、どういう専門の方たちが仕事をしておられて、それとなおかつ年間を通じてどういう調査活動しておられるのか、そしてその調査活動の成果というものが、この間の活動にどういうふうに反映されているのか、その辺りの流れについてお伺いしたいのですが。</p>
高橋館長	<p>市役所の正規職員の学芸員が現在2名、こちらの鎌田とこちらの紀伊の2名になっておりまして、2人とも専門は西洋美術ということになっております。</p> <p>そしてそれ以外に、非常勤で会計年度任用職員の学芸員が2名おりまして、1人は文学、もう1人はグラフィックデザインが専門ということで、学芸員は正規と非常勤を含めて4人ということになっております。</p>
事務局 紀伊	<p>調査活動の内容ですが、年に1回以上はコレクション展を行っているので、地域の作家を中心に新しく入った収蔵品も含め調査をしています。それから自分の分野以外の企画展とかもあるので、その企画展の準備に応じて調査も行っています。企画展を準備し開催することが成果となります。</p> <p>これから10周年に向けて私の方で準備しているのは、今までコレクション展をやってきた流れですとかを新居浜のコンテンツとして、収蔵している作家を皆さんにもっと見ていただきたいというのがあるので、そういったものを10周年で今計画しています。</p>
佐伯委員	<p>今現在、「はじめましてのコレクション」というのをやっていらっしゃるんですが、年間にどれくらい美術品に関する調査をされて、どういう形で収集をしておられるのか、この会議の席でデータを示していただけだと思います。</p> <p>例えば、購入でどれほどなのかとか、寄贈でどれほどなのかとか、それが学芸員さんのどういう調査の結果どう行き着いたのか、コレクションが毎年毎年着実にどれだけ集まっているのかというのを、博物館美術館としてもっとベーシックなところのお話をお伺いしたい。</p>
事務局 紀伊	<p>年に一度収集委員会というものがあまして、市内の方関連のある方から作品の収集を受けています。コンスタントに作品がずっと入ってきているというわけではありませんが、今開催しているのが「はじめましてのコレクション」ですが、新居浜市出身の秋月繁さんが2015年、こちらが開館したときに亡くなられて、亡くなられたときに作品がうちにほとんど預けられていたような状況になっており、作品は、資料を含めると2,000点以上あります。こちらの人員体制が変わりながらずっと調査をしていたところで、それがようやく今年度になって寄贈の手続きが完了したところです。新しいものを調査しているというよりは、北代省三の作品と秋月繁の作品がたくさんありますので、その2つを今中心に私の方では調査しているということです。</p>

高橋館長	美術館として購入というのはあまりありません。館ができるときに美術作品を購入して、今年度は北代省三の作品を購入したが、それ以外は基本的には寄贈を中心としています。それから年に1回収集審査委員会を開いています。ある程度新居浜にゆかりのある美術とか、新居浜美術界を俯瞰する上で必要な重要と思える作品という観点で、コレクションに加えるべきかどうかというのを1つ1つ検討していますが、購入というのはなかなか少ない状況です。
神野恭多委員	先日、他県の美術館を伺ったときに、収集品がどんどん増えてきて、非常に苦労されているという話を伺ったんですけれども、現在のあかがねミュージアムとしての、空間というか、状況を知りたい。 あとPTAとして来ていますので、小学生、中学生をどのように巻き込まれているのか。今回「かおてん」は特にたくさん子どもが来られていたと思うのですが、学校だったり、子どもたちとどのように関わったり周知したりしているのかを教えてください。
高橋館長	まず子どもにつきましては、基本的にうちの展覧会はほぼ中学生以下は無料という形で進めております。 ジュニア学芸員事業というのは小学4年生から中学2年生を対象にした事業で、その中で今年度は、山下清展について学びましょう、チラシを子どもの手で作りましょうみたいなことをやまして、そのチラシは小中学校に配布したりしております。 あとは、今年度4月から6月に行ったひろしま美術館展につきましても、近代洋画というのはちょっと敷居が高いところはあったのですが、こちらについても来ていただいた方のために小中学生の子ども向けパンフレットというのを作って、学校に配布しました。山下清展についても、子ども向けパンフレットを作成し会場に設置・配布しております。
事務局 紀伊	ひろしま美術館展では、地元の美術部の学生さんとかが美術のクラブの活動として来ていただいて、こちら学芸員の方で説明をして一緒に展覧会を回ったりしました。
事務局 井上	あと夏休みになりましたが、ツペラツペラ「かおてん」に関しましては、実行委員会を組むときに小学校の方からもご参加をいただいたり、工夫しております。
事務局 紀伊	収蔵庫の今の収納状況に関しては今おっしゃった通り、うちも非常に厳しい状態にありまして、ほぼ100%に近いような形まで埋まっております。 収納方法にもよるとは思いますが、秋月繁先生の資料ですとかダンボールでいうと200箱以上あったり、普通の大きな絵の作品とかでラックにかけると1枚でもかなり大きな幅を取ってしまいますので、頑張ってもきれいに収納しても今ギリギリあと少し入るかな、というところが現状ではあります。
吉田会長	はい、ほかにございせんか
徳田委員	実際に今この施設が本音として抱えているところは、この協議会で出す・出さない、の話ではなくて、実際には可視化をして、その問題についてそれぞれの専門家だとか、協議するべきことがあるようだったら出していった方がいいと思います。 博物館活動としては基本的に言うと4つの大きな分類がありますので、資料の収集調査活動から始まって、整理保存の活動があって、そしてその調査をし、その調査を結果的に博物館の展示と教育活動として提示していったら、なおかつ社会と

<p>吉田会長</p>	<p>の連携をしていく、というのが博物館における本来のルールではありません。同時にそれをやるために資料が集まっていった結果、収蔵庫の問題というか、収蔵庫の取扱いに関して収集品の取扱いの価値についてどういうふうに提示するのか、価値があるものかないものはどこでどういうふうに分けるのか、多大な問題が実際に出てきている。</p> <p>収蔵方法の棚下ろしの状況における状況としての100%、もう次に待っているのはその先にどういうふうに入ってくるものと出していくものと、ものが増えていくことと整理をしていくことと、ここの施設の文化をどうやって活用していくかというところは正直、博物館の本題というか命題の部分です。</p> <p>そういうところもデータは報告としては出した方がよいのじゃないかというふうになちょっと思いました。</p> <p>また、来年度以降、ご検討いただけたらと思います。</p>
<p>高橋館長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他はございませんか。</p> <p>そうしましたら、議事1につきましては、これで議事を終了させていただいて、次に参りさせていただきます。</p> <p>続きまして、議事2、令和6年度事業計画案について事務局よりご説明をよろしくをお願いします。</p>
<p>事務局 紀伊</p>	<p>来年度につきましては、見ていただいたとおり、4つの展示会を予定しております。アーツ・アンド・クラフツとデザイン展、こちらが4月には始まります。</p> <p>そして夏休みの時に三沢厚彦展「アニマルズ」、そして冬休み時期に手塚治虫展、あと2月から3月にかけて新居浜の美術コレクション展ということで開催いたしまして、手塚治虫展につきましては、実行委員会形式で指定管理者を中心に運営する予定となっております。</p> <p>個別の展示会については、各担当学芸員及び指定管理より説明いたします。</p>
	<p>アーツ・アンド・クラフツとデザイン展について、展示会の会期としましては、ゴールデンウィークの4月27日から6月末までを予定しております。</p> <p>展示会内容としましては、19世紀後半にイギリスで興ったデザイン運動でありますアーツ&クラフツ運動の多彩な動きを、ウィリアム・モリスをはじめとするイギリスの作家を中心に近代建築三大巨匠の一人でありますアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトまで約170点の作品を通じて紹介する展示会です。</p> <p>皆様のお手元にこちらの青いチラシの案をお配りさせていただいているので、こちらも合わせてご覧ください。</p> <p>こちらの展示会は2年ほど前から全国巡回しております展示会として、他の館でも1万人以上が来客されているかなり人気の展示会となっております。</p> <p>お客さんのターゲットとしては30代以上の女性の方が中心になっているようです。</p> <p>また、今回、これは全国の巡回の展示会なのですが、新居浜会場独自の企画としまして、日暮別邸がアーツ&クラフツのデザインを受けて設計されているということもあわせて、今回、日暮別邸記念館さんと住友6社様にもご協力いただきまして、日暮別邸の中にあります家具を一部お借りしたりですとか、そういった形で新居浜にもアーツ&クラフツの運動の影響を見ることが出来ますよ、といったことで、連携展示を行いまして、日暮別邸記念館さんにも言っていたら、新居浜市美術館にも来てもらうように、相互の連携の展示も行われるようになっております。</p> <p>展示する作品としましては、チラシの裏を見ていただきまして皆さんの上の鳥の</p>

<p>事務局 鎌田</p>	<p>対の1番のこの模様を見たことがあるかもしれませんが、こういったモリスの作品ですとか、椅子の家具ですとか、タイルとかステンドグラスですとか、ランプとかアクセサリーとかいろんなデザインの作品が中心となっていて、新居浜市美術館のこういったデザインの展覧会というのは今までやってきておりませんし、初めての試みになるのですが、立体作品が中心になります。</p> <p>会期中の関連事業としましてはこの展覧会を監修されました大阪大学の名誉教授の藤田先生にご講演をいただくのと、こちらのチラシのデザインをしておりますデザイナーの軸原ヨウスケさんという方に、こういった模様のパターンを作るようなデザインのワークショップを今計画しております。</p> <p>展示の中では撮影が可能な場所も設けられておりまして、そういった形で皆さんにお客さんにも発信してもらうような形で、今まで内覧会にも近隣の美術館さんも実は呼んでいないところがありまして、今までよりも内覧会でいろんな方、例えば大学生ですとか、近隣の美術館学芸員さんとかデザイナーさんですとか、こういったデザインで関心の高そうな方も呼んで、そういった方にいろいろ発信をしていただくというちょっと新しい試みをしようかなと、今のところ考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>続きまして、夏季の美術展覧会といたしまして、「三沢厚彦 アニマルズ イン新居浜」を予定しております。</p> <p>皆様のお手元に資料をお配りしていると思いますが、三沢厚彦先生は京都府のご出身で、現在神奈川県にお住まいです。</p> <p>1961年生まれですので62歳ということで、東京芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻を修了し、日本を代表する二大彫刻賞である中原梯二郎賞と平櫛田中賞を受賞されております。</p> <p>今回6年度、彫刻の展覧会を企画させていただいたのは、これまで新居浜市では、先ほどのデザインもそうだったのですけれども、彫刻をまとめて展示をする機会もなかったかと思われます。</p> <p>特に現代彫刻家の方の作品は紹介してはいなかったと思われますので、今回紹介したいということで三沢先生の方に直接お話をさせていただきましたところ、快諾いただきました。</p> <p>三沢先生の作品に関しましては、2ページ目のところに上段なのですが、こちらが現在、新居浜市の中学生が使用している美術の教科書になっています。その教科書の中にも取り上げられているということで、中学生には授業等でも紹介があるかと思われるのですけれども、その他にも他県とかで使われている中学生の美術の教科書等には表紙とかも飾っておりまして、名前はちょっとわからない方もいらっしゃるかもしれませんが、作品は見かけたことがあるなというお子さんもいらっしゃるのではないかと思います。</p> <p>現在活躍されている先生ですので、直接三沢先生に来ていただいてアーティストトークの時間も設けたいと考えております。</p> <p>内容としては、材料が樟<クスノキ>を使われていて、木彫になりますが、等身大の動物を彫る木彫家の三沢厚彦先生の展覧会になります。</p> <p>会場は展示室3室あるのですが、今回も3室全部を使用させていただいて展示をしようと思っております。しかし、三沢先生は展示室以外のところにもちよっとずつ彫刻を置いたり、過去の会場ではそのように、されていたこともありますので、エレベーター脇とか2階のロビーとかそういったところを使って広く展示をしたいとも考えております。</p> <p>先ほどから出ていたのですけれども、山下清展に関しましては、たくさんの方に来ていただいたのですけれども、やはり40代以上の方、予想通り多くてですね、</p>
---------------	--

事務局 井上

大高生は全体の2%ということになっておりまして、かなり若い方が少なかったの
で、今回、中学生はこういう教科書というようなところからのとっかかり、それ
以上の高大生（高校生、大学生）に関しましてもまた、新たな展覧会というこ
とで、興味を持っていただけたらと考えております。

作品の点数なのですけれども、一体一体がかなり大きい作品になりますので、写
真の先生が彫刻で彫られているような大きい作品は大体15点、小さい作品が15
点、油絵等も含めて、全部で大体60点くらいにはなるかと思うのですけれど
も、当館の展示室は天井が5メートルということで、かなり広い空間を利用して、大
きいダイナミックな展示の仕方を考えております。

大体これ総量は全部で4トントラック4台分くらいの点数になっており、かなり
ボリュームはあると思われます。以上です。

続きまして、指定管理の方の展覧会になりますけれども、手元の方に手塚治虫展
のカラーのチラシなどを配っております。

会期の方は、12月から年末、年始にかけての期間を考えております。

今年は、指定管理の展覧会は手塚治虫展だけということになりますが、40代以降
の人からしましたら、手塚治虫といえば鉄腕アトムだとか、ブラックジャック
だとか、リボンの騎士だとか、老若男女といえますか、女性も含めてなるほ
どなというのがわかるところもあるのですけど、実は最近の小学生とかに行くと、
手塚治虫ってちょっとピンとこないんですね。

実は手塚治虫展と言いながらも、子ども向けの展覧会ではないのではないかなと
いうふうに、実は今、予想しております。

そういった中では当然普通にあるような、手塚さんがなぜ手塚治虫になったのか、
ご存知のように医学博士、お医者さんの免許を持っている方ですね。

作品としても、生死、生きたり死んだりとか、そういった重いテーマも含めたも
のとか、特にブラックジャックとか、そういったところは医療のことも含めまし
て、今でもまだアニメが続いているぐらい結構関係があるものであります。

できるだけ子どもたちにも伝えたいし、当然、これを見て育った大人の世代たち
にもやはり、もう一度手塚治虫について考えてもらいたいというような展覧会に
なっております。

いくつかあるような原画の展示も当然ありますし、どうやったら手塚治虫になっ
てきたのか、そういったところまで展示する展覧会になっております。

これに関連するワークショップも計画しておりまして、実際に漫画を描いてみよ
うとか、実際に漫画についてのトークイベントを行ったりとかですね、先ほど手
塚さんの話でバッファロー吾郎Aさんという話をしたのですけど、特にちょうど
レーザーラモンHGさん、昔はフォーとやっていた、あの方、実はすごく絵が上
手で、プレバトに出ているのですけども、その絵をちょっと講演会の時に見せ
ると、やっぱりかなり反響があるので、できたらHGさんに来ていただいて、その
絵を描く漫画を描いたり、その絵を描いたりするようなワークショップもできな
いかな、ということは今計画しております。

まだちょっと約1年後の展覧会になりますので、まだ具体的などころには至って
いないのですけど、全国巡回展でやっている展覧会になっておりますので、ある
程度の集客は見込めるのではないかなと思うのですけども、先生方も言われて
いるように見ていただくだけの展覧会だと面白くないと思いますので、ワークシ
ョップだったりとか講演会だったりとか、そういったものを通じて、漫画とかアニ
メはすごく日本代表的なものだと思いますので、そういったところまで体験し
ていただけるようなものになればと考えております。

指定管理の展覧会は、以上となります。

高橋館長	<p>あと、新居浜美術コレクション展につきましては、毎年1回ないし2回行ってありますので、当方学芸員の方で、コレクションの中から何らかのテーマを設定して展示するという展覧会を2月1日から3月16日までの期間で行われるということを予定しております。</p> <p>以上です</p>
吉田会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまの令和6年度事業計画についてご質問、ご意見等いただきたいと思っております。</p>
合田委員	<p>山下清展で成功した原因の一つに、ビデオ放映とか昔展覧会した時の新聞記事とか、それからその当時の新居浜市の歴史を物語る放映があったと思うんですね。それらを見てたくさんの方が、椅子が足りないぐらいたくさん見に来られていて、より親しみ、作家の活動に親しみを覚えた方がほとんどだったのではないかと思うので、そういったビデオ放映とか時代背景とか新居浜に関わりがもっとあるんだよとか、そういうものをこの展覧会の中に入れていただくと、より作家とのつながりが強くなっていいんじゃないかなと思ったりしていますが。</p>
事務局 紀伊	<p>アーツ・アンド・クラフツに関しては、今回新居浜との関わりもありますので、そういった形で親しみを持ってもらいやすいかな、というのがあります。</p> <p>日暮別邸さんからも家具を借りているのと同時に、日暮別邸さんの紹介動画みたいなものも日暮別邸さんから借りるようにしております、会場内で見られるようにする予定ではあります。</p>
吉田会長	<p>岡野さんは、何かありませんか。</p>
岡野委員	<p>やっぱり子どもたちに私は見せたいなっていうのは、例えば手塚治虫展にしても思っています。</p> <p>自分が小学校の教員だったというのもあって、子どもたちには手塚治虫は年代的には全くかけ離れてはいるのだけれど、おそらく知ったら子どもたちはまた興味関心が高まると思うんですね。</p> <p>手塚治虫の作品を私は読んでほしいとも子どもたちに思うので、ぜひとも先ほど言われたように、手塚治虫に関しても、何かPRするのに工夫があって小中学生が行ってみたいなと思えるようなPRの方を考えていただけたらなと思っています。</p>
徳田委員	<p>三沢さんの展示は自主企画ですか。</p>
事務局 鎌田	<p>コロナ前までは、美連協の方で巡回展をしていたみたいなのですが、コロナの前で一旦美連協がそういう巡回展を中止しましたので、その後はそれぞれの館が自主企画のような形でしておりまして、これまでに新潟県立近代美術館と今年は千葉市立美術館がそれぞれされているのですけれども、また独自のテーマで、それぞれされています。</p> <p>うちの方は、まとまってやっぱり点数それだけ持ってこれられないので、アニマルズのところに焦点を当ててこちらの方で作品の選定から先生の方と話し合いさせていただきながら進めていっている状態です。</p>
徳田委員 事務局 鎌田	<p>いわゆるユニットパッケージでしょうか。</p> <p>ではないです。</p>

<p>徳田委員 事務局 鎌田 徳田委員</p>	<p>ただ、ゼロから作ったわけではないですよ。でも、ほぼ、ゼロからですね。ゼロから企画をやったとすると、これどれだけお金をかけているのですかと気になります。</p> <p>巡回展の場合だったら、見込み数も質問があるのですが、見込み数を数字で出されているのは何を持って出しているのかと気になったりもしまして、見込み数も含めてほとんど巡回展として過去後の前のデータのところを根拠にして出しているのだろうと勝手に思っていたのですが、先ほど巡回展という話が三沢さんのやつに無かったので質問させてもらったのですが、三沢さんもこれまでの過去の展覧会をやっていたベースがあって、それを変えた上で、いわゆるこちらに持ってくるという感じですよということですね。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>昨年、この場所で今年度、令和5年度の企画展とても楽しみにしていますという話をさせていただいたと思うのですが、ひろしま美術館展も、「かおてん」も山下清展も伺いました。ありがとうございました。</p> <p>山下清展は本当に良くてたくさんの方が見られていて、それに驚きましたがその展示方法も素敵でしたし、何より照明がいいので、作品が本当にクリアに見えました。</p> <p>山下清さんが新居浜とこんなにつながりがあったのかというのも、展示でよくわかりました。</p> <p>学芸員さんたちが苦勞して展示してくださったんだということも伝わってまいりました。</p> <p>常日頃は子どもたちの作品、今は科学奨励賞もありますし、明日から新居浜子ども美術展の展示もさせていただくのですけれども、ありがとうございます。</p> <p>「かおてん」に行ったよという子どもたちも、夏休みにあかがねミュージアムに来ることが家族のイベントの一つとして定着しているのかな、というのは私自身も思っています。</p> <p>次年度は絶対にアーツ・アンド・クラフツとデザイン展に来ようと、ひそかに思っているのですが、日暮別邸とこんなに関係があったのかということも驚きました。</p> <p>私はずっと中学校の教諭をしていたので、美術の教科書も知っているので、三沢厚彦展が来るのかと思って、この夏もまた「かおてん」とは違った形で子どもたちも喜べるかな、というふうに思っています。</p> <p>あの広い展示室で照明が当たってこの木彫がどんなふうに見えるのかな、というのも大変楽しみにしております。</p> <p>手塚治虫展等々は先生方がおっしゃってくださったので、大変楽しみにしております。これからもよろしく願います。</p>
<p>神野祐一委員</p>	<p>私もこういった宣伝の資料を直接メールすることもありますし、また自治会役員等にも新居浜市の情報をいただいて展開をするのですけれども、一方で自治会に関わりのない方はかなり多くの方が来ているので、そういったところの展開が非常に難しくなっていると思います。</p> <p>様々な広報であるとかメディアとか、モール等でも宣伝をされているとは思いますが、そういった細かなところの展開がないとやはり数字にはあがらないというふうに思うこともありますので、何か仕掛けを新たに考えられると、特に小学生とか中学生、こういったところは学校での展開ができるんだけど、全く関わりのない方たくさんおられると思うので、そういったところのアクションというか、何か取り組みを、期待を持って、考えてもらいたいと思います。</p>
<p>吉田会長</p>	<p>尾崎さん、何かご意見ございませんか。</p>

尾崎委員	<p>私は今日初めてこちらの会に参加させていただいたのですけれども、本当に皆さんがご苦労されて、いろんな企画を立てられて、していただいていることを非常に感謝申し上げます。</p> <p>今年の展示も今から楽しみにしていますが、山下清展が最後の駆け込みがすごく多くて、私の知り合いも家族で西条から来てくれたのですけれども、車を停めるところがなく、すごくご主人がイライラして結局見ないまま帰ったというのを聞いて、残念な思いをしたような次第です。</p> <p>私はすごく最初の方に行かせていただいた。最後駆け込みになった時の、一つ駐車場の問題とか何か対応策があればいいなということを感じております。</p>
吉田会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>本日の議事は全て終了いたしましたけれども、せっかくの機会でございますので、そのほか何かございませんでしょうか。</p>
高橋館長	<p>いくつか報告をさせていただきます。</p> <p>年度変わりの4月1日から新居浜市美術館の使用料の減免規定が変更になります。これまで市主催・共催事業については会場使用料を無料としていたのですが、全市的な方針により、新居浜市美術館についても4月1日以降、5割減免をお願いすることになります。</p> <p>あかがねミュージアムの中の指定管理部分、地下のホールや展示スペースについても、市の全体的な方針に準じる形で、使用料は市共催事業でも5割はいただきたいということで、報告をさせていただきます。</p> <p>あと、この協議会に先立ちまして、あかがねミュージアムの名誉館長であります青柳正規先生の方に、先日私も行ってまいりました。運営方針についても報告をしてご助言をいただいて、その中で例えば巡回展というのは非常に企画会社に払うコストが高く、負担になっているのではとおっしゃられました。例えば学芸員が自分で作った企画、あるいは他の美術館の学芸員と共同で作ったような企画でも非常に面白いものがあるし、集客力があるものもある。そういうふうに関後、よその美術館とのネットワークを広げていって、そういう事業をどんどん取り入れていったらいいですね、みたいなご助言をいただきましたので、方針としては考えていきたいと思っております。</p>
吉田会長	<p>一点、以前お聞きしたのですが、JRの電車を待つ高校生がここでよく勉強しているという話を聞きました。文化、美術、そして教養の拠点になりつつありますので、ぜひそういった学生たちが、この会場に足を運んでもらえるような形を受け入れていただくとありがたいかなと思っております。</p>
事務局 井上	<p>実は5時にこちらの建物は閉館というか、美術館とかは終了するのですけれども、それ以外の施設、スタジオだったりとか、あとは屋内ステージも5時以降、2階の美術館が閉まった後も実はピアノを弾いたりすることができます。</p> <p>そういった意味で、5時以降に利用する、例えば高校生とか特に受験とかテスト勉強をしに来ています。</p> <p>地下のカフェに関しましては、5時になるとカフェが閉まるのですけれども、逆に高校生が閉まった後のソファとかで勉強しているのですけれども、今のところはちょっと黙認という形で、そのまま勉強はしてもらっています。</p> <p>そのあたりは今のところは暖かい目で使ってもらって、その子供たちがこの施設はいいということで、どんどん足を運んでくれることを期待して、今のところはそのままにしています。</p>

	<p>けれどもこの外に実はこの辺の机も全部置きっぱなしにしているのですけれども、ちょっと暗い中でも高校生がそこで勉強していたりしますので、今後はそういったルールだったりとか明確なものを決めながら使っていただきたいなと思っております。</p> <p>今のところは自由に勉強してもらっているのですが、5時以降になりますと、この建物は吹き抜けがあるんですけれども、照明が実はそんなにたくさんついていなくて、自然の光がなくなると結構、夕方は暗くなっていきますので、カフェなどの明るいところを求めて高校生は勉強しています。そういった意味では必ずしも断るわけにはいかないけれども、ある程度のルールを決めながら今後は使ってもらおうかな、というのが館内からもそういう話が出ています。</p>
神野恭多委員	<p>ルールを決めた上で、スタンドライトでも置いてあげて、どんどん使ってくれと、私も嬉しいなと思うのですが、よろしくをお願いします。</p>
合田委員	<p>以前に住友コレクションで青銅器展を見せていただいたときに、みんなから、すごいね、すごいねって言われて、そして住友さんとの絆がすごくその時強く感じたのですが、泉屋博古館には絵画もたくさんコレクションしているとお聞きしたので、ネットでも調べてみたらたくさんあったので、これぜひ皆さんに見せていただけたら、また住友さんと市民の皆さんとのつながりが強くなっていくのではないかなと思うので、ぜひご検討していただけたらと思います。</p>
高橋館長	<p>来年度の展覧会は説明した通りなのですが、再来年が10周年にあたりまして、住友、泉屋博古館とかとのつながりは、特に10周年とかでアピールする必要があると考えているところです。</p>
吉田会長	<p>他にございませんか。</p> <p>非常に活発なご意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>では、これをもちまして、令和5年度第1回新居浜市総合文化施設及び美術館協議会を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>